

Development of the DESIGN-R with an observational study: An absolute evaluation tool for monitoring pressure ulcer wound healing

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松井, 優子, Matsui, Yuko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31450

博士論文審査結果報告書

報告番号 医博甲第2217号

学籍番号 0527022025

氏 名 松井 優子

論文審査員

主 査 (職名) 中谷 壽男 (教授)

副 査 (職名) 城戸 照彦 (教授)

副 査 (職名) 須釜 淳子 (教授)

論文題名 Development of the DESIGN-R with an observational study: An absolute evaluation tool for monitoring pressure ulcer wound healing
観察研究による褥瘡治癒の絶対的評価尺度 (DESIGN-R) の開発

【論文内容の要旨】

DESIGNは、2002年に日本褥瘡学会が作成した褥瘡状態評価スケールである。DESIGNの点数の重みは、エキスパートオピニオンにより決定されたため、個々の褥瘡の治癒経過の評価は可能だが、異なる褥瘡の重症度の比較はできないという限界があった。本研究の目的は、褥瘡の治癒確率を重症度の指標とし、統計学的手法によりDESIGNの点数に重みを付けることである。対象は、2005年4月1日から2005年9月30日に日本褥瘡学会評議員が所属する施設での後ろ向き調査による褥瘡2598部位と2007年4月1日から2007年5月31日に日本褥瘡学会学術教育委員が所属する施設での前向き調査による褥瘡1003部位だった。DESIGN合計点が最高の日を調査開始日とし、その時点から治癒または打ち切りまでの日数を調査日数とした。生存変数を調査日数、状態変数を治癒か打ち切りか、共変量を調査開始日のDESIGN項目点数としたコックスハザード分析を行い、そのハザード比の自然対数を項目の重みとした。全対象施設の施設長の承諾、金沢大学医学倫理審査委員会の承諾を得て実施した。コックスハザード分析の結果、重みの順位は、ポケット、サイズ、炎症/感染、肉芽組織、滲出液、壊死組織となった。適合度を示すHarrell's C statisticsは0.74であった。以上の過程を経て完成した尺度をDESIGN-Rとした。

【審査結果の要旨】

本研究は、2002年診療報酬改定により褥瘡対策を医師・看護師・薬剤師・管理栄養士等の複数の医療職で行うことが義務付けられ、その対策の要となる褥瘡状態評価尺度の開発に関するものである。前向き調査と後ろ向き調査を含めて解析した手法に限界はあるが、3601例の褥瘡を統計学的に解析し、項目得点の重みづけを行ったことは、患者の効率的な褥瘡対策と退院調整、褥瘡対策のアウトカム評価に使用でき、チーム医療の推進に貢献することが期待される。以上から、本論文は博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。